

**決算特別委員会産業建設分科会会議記録
(決算審査)**

1. 日 時	平成30年10月4日(木) 9:25開会 平成30年10月4日(水) 14:30閉会
2. 場 所	議員協議会室
3. 出席議員	大上和則座長、吉田知代副座長、渡辺拓道委員、園田依子委員、 足立義則委員、森本富夫議長
4. 会議に付した事件	認定第1号 平成29年度篠山市一般会計歳入歳出決算認定について 認定第8号 平成29年度篠山市農業共済事業会計決算認定について
5. 議事の経過	<p>■開会 9:25 大上座長 あいさつ 大上座長 開議宣告</p> <p>■認定第1号 平成29年度篠山市一般会計歳入歳出決算認定について</p> <p>【主な説明】 農業委員会事務局より決算説明資料に基づき説明</p> <p>【主な質疑】 渡辺委員 農業委員会事務局費に関し、県支出金の機構集積支援事業補助金を利用した効果はどうか。 農業委員会 平成30年度からの新体制の移行に伴い、農地利用最適化推進委員活動のベースとなる基礎資料の作成を行うための日々雇用職員の賃金と、農業委員等の資質向上のための研修費用に利用している。 渡辺委員 基礎資料はどのように整理しているのか。 農業委員会 エクセルの形で、地域ごとに一覧表にして整理している。 渡辺委員 所有者単位で集積が必要ではないか。農地台帳システムを利用した整理をしてはどうか。 農業委員会 基礎資料の中には、所在地番、所有者も保有している。</p> <p>【主な説明】 農都創造部より決算説明資料に基づき説明(商工観光課)</p> <p>【主な質疑】</p>

足立委員	歳入の弁償金の詳細はなにか。
農都創造部	15万3千円は、市民センター1階女子トイレの設備を破壊した当事者からの弁償金である。70万4千7百円は、市民センター2階多目的ホールの電動式可動観覧席の一部が破損したことを受け、当該施設の管理者であるウイズささやまからの弁償金である。
足立委員	どのような壊し方なのか。
農都創造部	精神的に不安定でムシャクシャされて、便器を壊されたと聞取りしている。
足立委員	商工総務費に関し、(株)A社の経営診断と改善のアドバイスを得るために、公認会計士にコンサルティングを委託したとあるが、宿泊をやめ、業務を縮小するというアドバイスがあったのか。
農都創造部	平成29年10月から公認会計士に委託しており、平成29年度は、BやCの従業員の勤務形態、商品の分析等の経営アドバイスであった。今年に入ってからBに絞って議論してきた。現状では、宿泊営業を止め、人員削減をする方向で提案があり、(株)A社の役員会で議論して決まった。
足立委員	宿泊業務をしなくなるということだが、指定管理の条件に合致しなくなるのではないのか。
農都創造部	指定管理契約は宿泊業務をする前提で5年間の契約であるが、残りの2年間を休止するものである。過去に、Bを黒字化することはもともと難しく、Cで補うという話があったと聞いている。
足立委員	B単体で経営が難しいと思われる。D社の進出も決定していることから、市として今後の方向性を早めに判断してほしい。
農都創造部	早めに方向性を出したい。
足立委員	商工振興施設管理費に関し、篠山市民センターの利用についてだが、長期間借上げする団体(E等)が減免対象となっている。長期間借上げ、土日は書類を置いているだけなので、他の遊休施設を案内する等できないか。広く市民に使用してもらい、収入をあげてほしい。
農都創造部	総務部、商工会と話し検討していきたい。
園田委員	労働諸費に関し、篠山技能高等学校に支援することによって、地元就職につなげていくことが出来たということだが、その取り組みの内容はどのようなものか。
農都創造部	就職フェアや企業紹介フェア、高校生対象の企業紹介セミナー等の開催も含め、地元就職につなげることができた。
園田委員	ホームページへの年間アクセス数は、篠山技能高等学院に限った数字なのか。
農都創造部	アクセス数は、篠山技能高等学院に限った数字ではなく、就職情報な

	ども掲載している。
園田委員	市内の人の受講数がまだ少ない。組合や高校等にも働きかけながら連携して受講数を増やして行ってほしい。
農都創造部	周知方法が弱いところもあるので、篠山技能高等学院とも連携を取りながら周知していきたい。
吉田副座長	観光宣伝事業に関し、篠山観光案内所の利用客の伸びがない理由は何か。
農都創造部	リピーターが増加したことにより案内所に寄らない人が増えているのではないかと考えている。
渡辺委員	観光施設整備事業に関し、観光ボートの利用が増加しているということであるが、観光客の滞在時間が伸びたというような評価につながったのか。
農都創造部	観光ボート利用することにより、歴史四館の入場料の割引券を配布している。一定の周遊性はあると考えている。
渡辺委員	観光ボートの貸し出しは、期間限定で行っているが稼働率はどうか。
農都創造部	稼働率は後程提出するが、イベント時には混雑している。天候にも左右される。
渡辺委員	天候に左右されるのは、仕方がない。今後観光ボート事業の位置づけをどのように考えるのか。堀にボートを浮かべるといふ観光地としての演出効果として行うのなら、安価にして利用客にどんどん乗ってもらう方がいいのではないか。検討して欲しい。
足立委員	ボート貸出時間30分は長いのではないか。もう少し貸出時間も短く、単価も下げたらどうか。
大上座長	観光客誘致促進事業に関し、広告料の内訳は。
農都創造部	A社の広告に約119万円、B社とC社の広告にそれぞれに43万2千円、(株)D社への広告に32万4千円である。
大上座長	JR大阪にある大型モニターでのキャンペーン内容はどのようなものか。
農都創造部	篠山城、篠山の秋の味覚、ぼたん鍋の映像を正月明けから、1週間PRした。
大上座長	観光客誘致促進事業に関し、物品作成委託料に多言語指差しツール作成とあるが、作成部数はどのくらいあるのか。
農都創造部	観光案内・飲食・宿泊を各300部ずつ作成し、研修を実施の上、配布した。
農都創造部	商工会と連携しているので、直接事業者と面談される際に配布してもらっている。

- 大上座長 観光客おもてなし事業に関し、丹波焼の里と篠山城下町直通バスを運行して利便性は向上しているのか。
- 農都創造部 駅からの二次交通の利便性は向上している。30年度からはAを経由することになり、篠山城下町と兵庫陶芸美術館の乗車時間が10分ほど長くなっている。今後秋の行楽時期になるので更に周知していきたい。
- 農都創造部 丹波焼の里と篠山城下町直通バスの運行経費は、県である。市はPR費用のみ支出している。平成30年度からは本格運行となっている。
- 大上座長 六古窯日本遺産活用事業に関し、協議会の中で運営に関しての意見交換は出来るのか。
- 農都創造部 担当者会で意見交換することは可能である。
- 大上座長 効果が分かりにくい。酒・ビール・焼酎メーカーの大手メーカーとコラボして、六古窯の商品提案化の意見を出してほしい。
- 渡辺委員 商工振興費に関し、起業支援助成金は起業支援に申込すれば全て助成を受けることが出来るのか。更に、定住促進地域での起業者はあるのか。これまでに起業支援してきた人のフォローアップや現状把握はどうしているのか。
- 農都創造部 平成29年度は、8件の申し込み全てに助成したが、定住促進地域での起業志望者はなかった。これまでに起業支援してきた人へのフォローアップであるが、支援後3年間は、法人であれば決算書、個人であれば確定申告書の写しを提出してもらい経営状況を把握している。3年以内に廃業された方には、返金してもらっている。起業支援申込者は、ほぼ商工会に加入されるので、その後の相談など商工会でフォローしてもらっている。
- 渡辺委員 起業支援助成は事業を開始する時のみで、支援できているという考えでいいのか。
- 農都創造部 起業支援助成の申請をする方は大丈夫である。起業する前の相談で、断念される方はある。返金してもらった方は、平成24年以降で2件のみである。
- 渡辺委員 定住促進地域への誘導は出来ていないのではないかと。
- 農都創造部 平成29年度の実績はなかったが、28年度は3件の実績があった。平成30年度からは、若者のUIJターン者の起業や空き家等を活用した起業に対し新たな補助枠を設け支援している。そのことも含めて十分な周知を行い、定住促進地域への誘導を図っていきたい。

【主な説明】

農都創造部決より算説明資料に基づき説明（農都政策課）

【主な質疑】

渡辺委員 生産調整対策事業に関し、特産振興プランを29集落で策定しているが、特産物生産維持との連携は出来ているのか。

農都創造部 特産物生産は微減で抑えられた。

渡辺委員 特産振興プランを策定してもらった地域での効果はどうか。

農都創造部 特産振興プランには、5年後の目標数値を記載してもらい、地域内で農業を考えるとという気持ちを醸成している。プランを作ったから特産物の生産につながっているかどうかは、把握できていない。

渡辺委員 集落から課題を解決するための声が出てきたら、うまくいきたすと思われる。フォローアップして行って欲しい。

園田委員 担い手支援事業に関し、機械をレンタルするという考え方はないのか。

農都創造部 使用者によって使い方の違いや、レンタル会社のメンテナンスの管理の仕方の違いもあり、現状では難しいと考えている。

渡辺委員 新規就農者支援事業に関し、新規就農者希望者で補助を待っている人がいるのか。

農都創造部 1年に相談件数は30件ほどある。その内支援希望者が平成29年度は6名おり、6名とも就農している。希望者には支援しており、待機者はない。

森本議長 特産物振興事業に関し、お米を食べよう市民運動であるが一時は話題に上がったが、その効果と継続性、今後の展開はどうか。

農都創造部 今後も米の消費拡大に向け、「丹波篠山コシヒカリ宣言」により積極的にPRしていきたいと考えている。

森本議長 今後の展開として、丹波篠山栗の二次加工という点も考えてほしい。

農都創造部 一次商品としての良さを活かしたPRを行っている。加工用機械の補助も行っている。和菓子屋との連携もすすめていきたい。

大上座長 特産物普及PR事業に関し、台湾（国際食品見本市）の今後の展開は。

農都創造部 平成28年度から平成30年度の3ヶ年計画で行っていたが今年度でひとつの区切りの年になる。今後は、JAが商標登録している黒大豆を海外への進出も含め事業計画を進めていく予定である。

渡辺委員 農業農村振興施設管理事業に関し、ハートピア農園の利用状況はどうか。

それと八上のふるさと館については、建築してから年数がかなり経過しているが、財産の整理は出来ないのか。

農都創造部 ハートピア農園は、空きがない状態である。八上のふるさと館については、農林関係の補助金を利用して建築した。現在は、年間60万円の使用料で福祉団体に貸し付けている。今後検討していきたいと考えている。

■認定第8号 平成29年度篠山市農業共済事業会計決算認定について

農都創造部

【主な説明】

農都創造部より決算説明資料に基づき説明（農都政策課）

【主な質疑】

なし

■認定第1号 平成29年度篠山市一般会計歳入歳出決算認定について

【主な説明】

農都創造部より決算説明資料に基づき説明（農都環境課）

【主な質疑】

渡辺委員 中山間地域直接支払制度事業に関し、図面修正業務委託料とはどのような内容の支出か。

農都創造部 図面修正業務委託料は、地元より年度初めに、提出された事業箇所的位置図により面積等を算出している。年度途中で面積の増減や、設定場所の変更があった場合に、図面修正が必要になることがあり変更になった部分を委託している。

渡辺委員 熱心に取り組まれているが、元々条件の悪いところであるので、面積を減らしていきたいという動きがあるのではないかと心配している。対象面積を減らすための修正ではないということでしょうか。

農都創造部 減らすばかりではなく、今年度のように増加することもある。年によって取り組まれる田んぼが異なることもあり、都度面積が変わってくるので修正業務は毎年必要になってくる。

渡辺委員 管理がしんどくなっているところがあると思う。中山間事業の継続についての相談はあるのか。

農都創造部 昨年度に増やしたいといった相談はあったが、今のところは廃止した

い、減らしたいといった相談は受けていない。

渡辺委員

鳥獣被害対策事業に関し、鳥獣被害防護事業について、29年度で一段落という思いを持っているが、それ以降でもサル柵の相談を受けたりしている。耕作者も個人農家から大規模農家等に依頼するなどの変化も出てきている。集落で獣害対応ができていないほ場で依頼する場合など、新たに整備が必要になることもあると思われる。担当課としてそのような新たなニーズにも柔軟に対応する考えはあるのか。

農都創造部

29年度までの事業により必要な箇所には一通り整備できたと考えており、現時点では、担当課として新たに設置したいといった具体的な相談は受けていない。金網柵について施工後時間が経過したものや、マス目の大きさ等が古い規格であるものなどについて、補修等が必要になっているものもある。担当課としては劣化や機能が果たせていないものについて、どのような対策が必要なのか調べて、改修する等のソフト的な対応が今後必要になると考えている。

サル用電気柵についても整備は一段落し、電気柵が整備出来た場所は被害が減っている。一方で、未整備地域について出沒するようになり、被害の場所が変わってきている。整備要望の相談もあったが、今年度は予算化できていないため、市の2分の1の補助事業での整備を行っていただいている事例はある。現状をしっかりと調査し、出沒率の高いところや必要額を把握し対応していきたい。昨日も城北地区で捕獲を強化してほしい旨の要望があり、捕獲と併せて防護策を講じる必要がある旨の説明をしている。金網柵やサル用電気柵の支援は欠かせないものであるため、今後も対応できるよう考えていきたい。

森本議長

29年度は15頭のサルを捕獲してもらった。頭数管理により被害が減ったということも聞いているが、市内の5群の個体数の現状と、今後の個体数管理の方向性はどうか。

農都創造部

各群大人のメス15頭、群れ全体で40頭程度になるよう捕獲を進めている。大人メス15頭については、畑地区のC群を除いて達成できていないので引き続き捕獲を進めていく。C群では悪質個体の捕獲も進めており、昨年度は10頭捕獲し、群れの質を変えることにも取り組んでいる。県などと連携して農家の被害が軽減できるように引き続き取り組んでいきたい。

森本議長

昨年度の捕獲頭数15頭という結果は、最善の結果なのか。適正頭数の管理上どうか。

農都創造部

50から60頭の捕獲を想定していたので、15頭という結果は最善の結果には至っていない。捕獲檻の増設や餌付けを改善するなど、群れ

園田委員
農都創造部

を大きくさせないよう、さらに捕獲できる体制を検討していきたい。

生物多様性推進事業の南堀のハスについて、現状と今後の考え方は。今年度の取り組みの結果としては、花芽は付いたが開花には至らなかった。今年度、堀の水質及び土壌について専門家に見てもらったところ、ハスの生育に問題がないという見解が得られたため、堀自体はハスが育つ環境にあると考えている。今年度開花に至らなかった原因の一つが、植えつけているハスの種類が堀の深い水深に適応できない品種であることにあるのではないかと考えている。今年度、京都のハス愛好家から従来篠山城の堀にあったハスのレンコンを入手し、ポットで育ててみた結果、現在篠山城堀に植え付けている品種より明らかに背丈が高く成長し、篠山城堀由来のハスが堀での生長に適した品種なのではないかと考えている。来年度は、今年度ポットで育成した篠山城堀由来のレンコンを植え付けることで開花につなげられるのではないかと考えている。

森本議長

県の治山事業について、篠山市からは要望がなく、丹波地域では主に丹波市が利用し、丹波地域で使いきれない分が姫路に流用されたこともあると聞いている。篠山市では本当に必要な箇所がないのか。洗い出しができていないだけではないのか。要望の有無等はどうか。

農都創造部

29年度に治山の要望箇所について県の担当と再度現場を確認した。乗竹地区について、過去に災害で被災した箇所について予算がつき、29年度に調査し、今年度から進めていく予定である。26年度の丹波市豪雨から、人命優先ということで丹波市に優先的に予算がついているが、市内で要望があった箇所については人家が近くにある等保全対象の有無によって優先順位をつけ、現地確認のうえ要望しているところである。

森本議長

集中豪雨や台風等の災害が多く、篠山市でもいつ大きな災害が起こるかかわからないので、要望箇所を集約し、積極的に利用してもらいたい。

吉田副座長

混交林整備事業について、県の支出金が前年度に比べて1,263万円程減っている。3カ年計画で森林を整備するとのことだが、29年度が3年目ということによいか。

農都創造部

29年度が1年目で調査、2年目の30年度が作業道の開設、3年目の31年度が植樹ということで、3カ年で完了する事業になっている。

吉田副座長

今年度はどこで整備する予定になっているのか。

農都創造部

今年度はA地区で作業道を設置する予定である。

吉田副座長

今年度はA地区とB地区で実施するということか。

農都創造部

3カ年で整備するのがA地区である。B地区については、28年度に整備したところが被災したので災害復旧として実施した。3カ年の計画とは別である。

渡辺委員	ため池整備事業に関し、県などが点検する中で指摘があるものについて、受益者が多くて共用面積が広ければ改修されると思うが、受益者が少ないため池については対応できていない箇所があると思うがどのように把握しているのか。
農都創造部	ため池の定期点検において要整備という判断が出た場合、補助事業として整備するにあたり、地元で負担をして改修する意向を持っているかどうかの確認を行う。地元からの整備希望がある場合、県の5か年の管理計画に基づき整備を進める。負担が困難な地域では、要改修のまま整備できていないものもある。その場合は、市の土地改良補助金や多面的機能支払交付金を用いて改修できると案内している。
渡辺委員	そのような状況にあるため池は何か所程度あるのか。
農都創造部	手元に資料がないが、要改修となっており、管理計画にのっているため池は十数件程度であったと思う。
渡辺委員	池の下に住居があるが改修が進まないもの、中にはため池としての機能が終わっているものもあると思う。事故が心配なので、要整備箇所を減らす努力をしてもらいたい。
農都創造部	災害が多発しているため、住宅地に近いため池について調査するように国から要請があった。併せてため池の廃止についても、国が助成制度を設ける計画もあるため、市としても対応していきたいと考えている。
農都創造部	県と合同の緊急点検について、149か所の定期点検の結果として、異状なし、要保全計画、要改修の3パターンに区分した。要保全計画、要改修の場合は、ため池の損傷状況に応じて保全計画書を作成してもらっている。危険な池については、水の不要な時期になると落水するような保全計画を立ててもらっている。そのような対応をしているため池は、市内にかなりの件数がある。
農都創造部	詳細が示せないものについては後程資料を提出する。(資料提出済)
園田委員	最近、民家に近いところでナラ枯れが発生していると感じる。集中豪雨等でナラ枯れになった木が民家に倒れる心配もある。森林整備対策としてどのように考えているか。
農都創造部	古市から今田地区で多く発生していると把握している。特に、今田地区はナラ枯れしやすい天然林が人家近くに多い。先日、県と市でナラ枯れ被害について調査し、今後、県でどのような対策をとるのか検討する予定である。全部の木を切ることは予算的に難しいので、限られた地域での対応になると思う。対策として、人工林の広葉樹林化事業を利用して、ナラ枯れの木を切るだけでなく、周りの放置された木を含めて伐採し、森を入れ替えることを推進しており、今田地区などで計画されて

いる。

園田委員

民家の近くで枯れている木が目立つので対策を進めてもらいたい。また、地域の守らなければならない木などにうつることのないよう対応してもらいたい。

農都創造部

市で対応できる木や面積は限られる。地域のご神木等、ナラ枯れに弱い木について対応するなど、県から与えられた予算を効果的に利用できるように進めていきたい。

森本議長

地方創生計画の人・仕事プランにおいて林業従事者の拡大が掲げられていたと思う。29年度、林業関係で多様な事業に取り組んでいるが、林業就業者を増やすことについてどのような効果があったのか。

農都創造部

人工林の広葉樹林化事業について、29年度は伐採に関わる経費の補助額を100㎡あたり2,500円としていたが、30年度は2万円と8倍に増額し実施している。事業の請負については若手の林業家が数名で行うことが多く、林業家育成につながっていると考えている。大山地区で地域おこし協力隊として活躍する小牧隊員も来年度から林業家として起業できるよう活動している。他にも森林組合で勤めていた方が自立して林業家として活動している例もある。林業を生業として活動し続けられるよう、市としても支援していきたいと考えている。

農都創造部

30年度の話になるが、里山スクールのチェーンソー講習において21名の申し込みがあり、29年度の14名から増加している。篠山市が林業施策に積極的に取り組んでいるということで、林業での起業を検討中の方も講習を受講されている。チェーンソー講習の参加者21名のうち20台前半の男性が2名、女性も1名いる。また、福住の方で同じように林業にて起業したい人が、工場勤務から製材所に就職されたケースもある。市が予算を投じて事業を進めることで、林業に興味を持たれる方が増えているというのは担当として感じている。

■議員協議

認定第1号 平成29年度篠山市一般会計歳入歳出決算認定について

認定第8号 平成29年度篠山市農業共済事業会計決算認定について

—部長への確認質問なし—

—市長への確認質問なし—

■意向確認

- 認定第 1号 平成29年度篠山市一般会計歳入歳出決算認定について
認定第 3号 平成29年度篠山市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
認定第 4号 平成29年度篠山市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算認定について
認定第 8号 平成29年度篠山市農業共済事業会計決算認定について
認定第 9号 平成29年度篠山市水道事業会計決算認定について

－修正・反対等の意見なし－

■閉会 14:30